主体的・対話的な深い学びの実現を考える

久世均
（岐阜女子大学）

学習到達目標

■主体的・対話的で深い学びの実現について具体的に説明できる。

１．新学習指導要領の視点

子供たちの未来

- 子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く
  キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）

- 今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い
  マイケル・A・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）

- ２０３０年までには、週１５時間程度働けば済むようになる
  ジョン・メイナード・ケインズ氏（経済学者）

- 日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能に
  （2015年12月02日　株式会社野村総合研究所）

現在の職業の多くは、今後なくなっていく

学習指導要領改訂の背景

人工知能が進化して、
人間が活躍できる職業は
なくなるのではないか。

今学校で教えていることは、
時代が変化したら
通用しなくなるのではないか。

子供たちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、
未来の創り手となるために必要な資質・能力を
確実に備えることのできる学校教育を実現する。

より良い学校教育を通じて、より良い社会を作るという**目標を学校と社会が共有**して実現

社会や産業の構造が変化していく中で、私たち人間に求められるのは、定められた手続を効率的にこなしていくにとどまらず、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、自分なりに試行錯誤し、新たな価値を生み出していくことであるということ、そのためには生きて働く知識を含む、これからの時代に求められる資質・能力を学校教育で育成していくことが重要であるということを、学校と社会とが共通の認識として持つことができる好機にある。

学校教育のよさをさらに進化させるため、学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容、学び方の見通しを示す**「学びの地図」**として、**学習指導要領を示し、幅広く共有**

- これからの時代に求められる知識や力とは何かを明確にし、教育目標に盛り込む。これにより、子供が学びの意義や成果を自覚して次の学びにつなげたり、学校と地域・家庭とが教育目標を共有して「カリキュラム・マネジメント」が実現しやすくなる。
- 生きて働く知識や力を育む質の高い学習過程を実現するため、各教科における学びの特質を明確にするとともに、授業改善の視点（「アクティブ・ラーニングの視点」）を明確にする。これにより、教科の特質に応じた深い学びと、我が国の強みである「授業研究」を通じたさらなる授業改善が実現する。

主体的・対話的な深い学びの実現を考える

新学習指導要領の視点

学習指導要領改訂の方向性（案）

新しい時代に必要となる資質･能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携･協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「**カリキュラム･マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質･能力を踏まえた教科･科目等の新設や目標･内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質･能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

どのように学ぶか

主体的･対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識･技能の習得など、新しい時代に求められる資質･能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

6

教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料より

学習指導要領改訂の視点

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」
各教科等に関する個別の知識や技能など。身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。

②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」
主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力等）」
①や②の力が働く方向性を決定付ける情意や態度等に関わるもの。以下のようなものが含まれる。

・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会作りに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性に関するもの。

何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む観点からの
学習評価の充実

何を学ぶか

育成すべき資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化（小学校高学年での教科化等）や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実

◆ 国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善（地理歴史科における「地理総合」「歴史総合」、公民科における「公共」の設置等、新たな共通必履修科目の設置や科目構成の見直しなど抜本的な検討を行う。）　等

どのように学ぶか

アクティブ・ラーニングの視点からの
不断の授業改善

◆ 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか

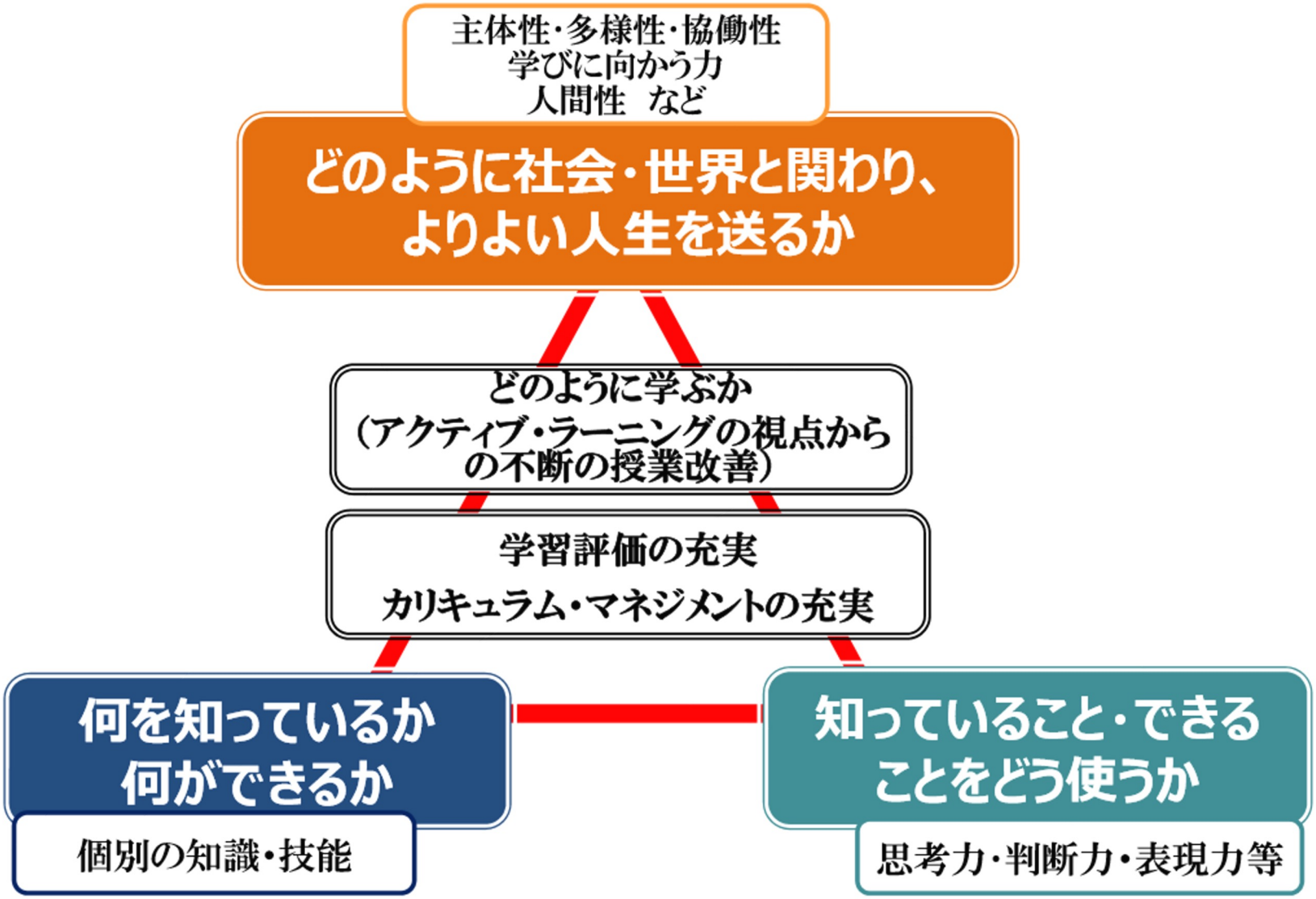
◆ 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか

◆ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

主体的・対話的な深い学びの実現を考える

教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料より

育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念



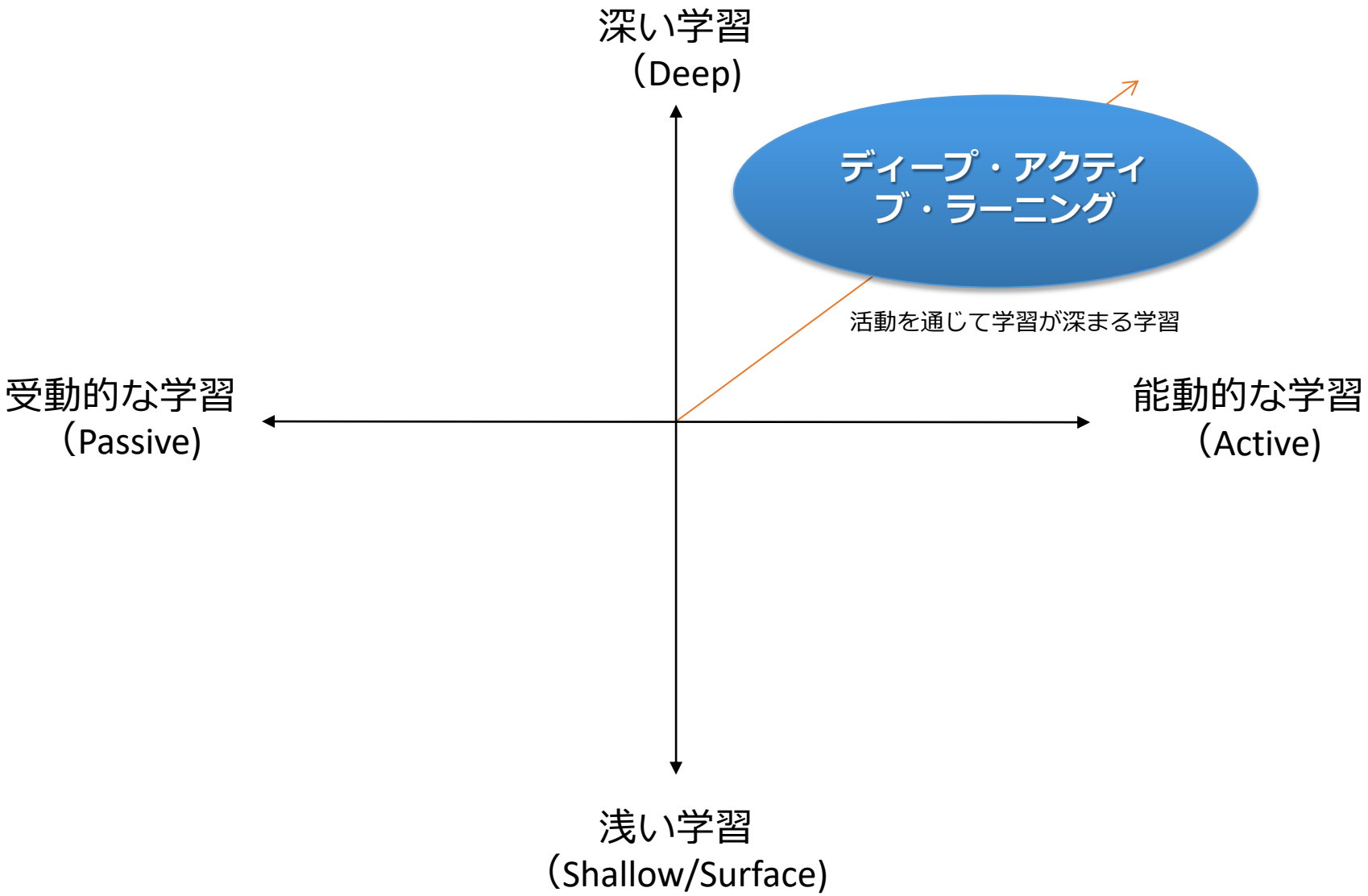
教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料より

２．主体的・対話的で深い学びの視点

“新たな学び”とは何か？

個々の課題に
応じた学び
Adaptive Learning
目標の質を問う
探求思考の学び
Deep Learning
内容の質を問う
主体的・対話的な
学び
Active Learning
方法の質を問う

“新たな学び”の方向性



資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書１：国立教育政策研究所（2015.3）

主体的
対話的な
深い学び
の実現とは？

主体的な学びの過程

　子どもたちが見通しを持って粘り強く取り組み，自らの学習活動を振り返って次につなげる．積極的に意欲を持って学習に取り組むことから始まり，難しい点に会ってもすぐにあきらめることなく，複眼的で多視点でものを考え，解決法を工夫し，課題をやり遂げていく．

　他の学習者や教師と考えの共有を図りつつ，自分の間違いを捉え，また自分と他者の良さを自覚し，多面的な理解を深めていく．

　意欲から意志へ，そして自覚する学習者へと育てていくのである．

主体的な学びとは？

自主的な学びとはどこが違うか？

「自主的」とは単純に「やるべきこと」は明確で、その行動を率先して人に言われないで自らやることです。

「主体的」は、何をやるかは決まっていない状況で自分で考えて、判断し行動することです。

対話的な学びの過程

　他者との対話を通じて外界との相互作用を通じて，自らの考えを広げ深める．

　対話とは，物事の複眼的で深い理解に達するために，様々な考えに触れ，やりとりを通していく．教師と子ども，子ども同士がやりとりすることとともに，外界の出来事やものや表現とのやりとりも重要となる．

　学習者である子どもが教材を前にその探究と理解に向かい，それを助ける教師がいて，また仲間同士がいる中で，ともに考える．

対話的な学びとは？

◆“共通点”や“相違点”を比べる対話

◆“個人的経験”を理由とした対話

◆考えやその価値を“関係付ける”対話

深い学びの過程

習得・活用・探究という学習プロセスの中で，問題発見・解決を念頭に置いた深い学びが実現できているかどうかということである.

　これは知識・技能の高度化であり，それらが互いに関連づけられ，体系化されていくことにより，思考力を発揮する問題解決過程を通して主体的に学んでいくことで可能にする.

　学習者が既に学んできたことと新たに学ぶことをつなげ，体系化された知識として保持し，教科としての体系的な見方を身に付ける中で，それを問題解決過程に使えるということを目指している.

学びの深まりとは何か？

関わりから気づきへ、
そして言葉にすること。
さらに、知識をつなげることを介して、
体系化（組織化）へ発展すること。

学びの深まりとは何か

主体的・対話的な深い学びの実現を考える

学びの深まりと発問

関りから
気づき

美しい花を
見つけた！

言葉にす
ること

この花を見て
どう思う？

知識をつ
なげる

この花はどういう名前の花
だろう！
葉っぱの形や花弁の形から
調べて見よう！

体系化

何故ここに咲いてい
るんだろう？

主体的・対話的な深い学びの実現を考える

教育目標の分類学（ブルーム・タキソノミー）

ブルームの教育目標分類学
【認知的領域】
（Bloom,B.S.他）

① **知識**	情報や概念を想起する
② **理解**	伝えられたことがわかり、素材や観念を利用できる
③ **応用**	情報や概念を特定の具体的な状況で使う
④ **分析**	情報や概念を書く部分に分解し、相互の関係を明らかにする
⑤ **総合**	様々な概念を組み合わせて新たなものを形作る
⑥ **評価**	素材や方法の価値を目的に照らして判断する

改訂版ブルーム分類学（Anderson,L.W.他）

知識次元	認知過程の次元					
	① 記憶	② 理解	③ 応用	④ 分析	⑤ 評価	⑥ 創造
事実的認識						
概念的知識						
遂行的知識						
メタ認知的知識						

梶田叡一（奈良学園大学長）著『教育評価（第2版補訂版）』（有斐閣）、国立教育政策研究所『社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理』を元に整理

教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料より

深い学びとは？

学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

深いアプローチ

- これまで持っていた知識や経験に考えを関連づけること
- パターンや重要な原理を探すこと
- 根拠を持ち、それを結論に関連づけること
- 論理や議論を注意深く、批判的に検討すること
- 学びながら成長していることを自覚的に理解すること
- コース内容に積極的に関心を持つこと

浅いアプローチ

- コースを知識と関連づけないこと
- 事実を棒暗記し、手続きをただ実行すること
- 新しい考えが示されるときに意味を理解するのに困難を覚えること
- コースか課題のいずれにも価値や意味をほとんど求めないこと
- 目的や戦略を反映させずに勉強すること
- 過度のプレッシャーを感じ、学習について心配すること

Entwistle,McCune,&Walker(2010),table5.2(p.109)の一部を翻訳

活動の「動詞」から見る学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

学習活動	深いアプローチ	浅いアプローチ
●振り返る	↕	
●離れた問題に適用する		
●仮説を立てる		
●原理と関連づける		
●身近な問題に適用する		
●説明する		
●論じる		
●関連づける		
●中心となる考えを理解する		↕
●記述する		
●言い換える		
●文章を理解する		
●認める・名前をあげる		
●記憶する		

Biggs&Tang(2011),Figure2.1(p.29)の一部を翻訳・作成

『ディープ・アクティブラーニング 大学授業を深化させるために』第１章（溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）執筆）より　195

教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料より

３．主体的・対話的で深い学びと学習理論

学ぶとは？

教授・学習理論の変遷

1960年代　**行動主義的学習論**　→スキナー（B.F.Skinner）

認知主義的学習論　→ピアジェ（J.Piaget）

1980年代　**構成主義的学習論**

1990年代　**社会的構成主義的学習論**

→ヴィゴツキー（Gotsky.L.S）